

保育界

2015
5



発行 日本保育協会

森や林のビオトープ

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にすることを育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



当協会がコーディネートし、園庭の一角、幅2.5mほどのところに“もりの小道”をつくった川崎市内の保育園（神奈川県）

『複数の種類の木を用意』



春になると、新緑が芽吹き、白や赤などいろいろな色が咲き始めます。地表近くではスマレが紫色の花を咲かせます。夏には木々の葉が茂り、秋にはその葉が赤や黄に色づきます。どんぐりなどの実は、園児にとって宝物です。また、土の上に積もった落ち葉は、心弾ませる遊び道具です。

こうした空間は、園庭でもつくることができます。高くなる種類の木、低いままの種類の木、また、冬に葉が落ちる木や常緑の木など、地域の自然に本来生える複数の種類の木を用意します。開花する季節や花の色、紅葉の色なども多様になるように選びます。野草も欠かせません。地域の森や林の中に本来生える在来の種類から選定します。

このように、保育者の工夫次第で、園庭に地域の森や林に近い空間が出来上がります。メジロなどの野鳥やチョウやカマキリの仲間なども訪れるでしょう。園児は、園庭にいながら、森遊びが可能となります。

■日本保育協会ほか後援『全国学校・園庭ビオトープコンクール2015』 しめきりは5月末
情報交流を目的に始まった本コンクールは、9回目（隔年開催/18年目）を迎えます。
‘狭くとも園児の大的お気に入り’ ‘保護者や地域住民が熱心’ ‘園ならではの保育を実践’
など、自然の保育力を活かす多彩な取組の参加をお待ちしています。
必要に応じて助言も行います。詳しくは、日本生態系協会のサイトをご覧ください。